ふと目をつむれば、私には思い出す風景があります。

澄み切ったきれいな川。透き通った水の中にはたくさんの魚がおよぎ、水草がゆれています。足をつけるとキーンと冷えて心地よく感じます。そして水面には、きらきらと青く光るはねをもつ美しいとんぼ。大好きな祖父母の住む安曇野のわさび田の光景です。

美しいとんぼは「アオハダトンボ」です。アオハダトンボは、水生植物が多く水のきれいなところに生息しています。

しかし今、絶めつ危惧Ⅱ類第4次レッドリストに指定されています。きれいな川を守り続けなければ絶めつしてしまうのです。

どうすればアオハダトンボを、川を守れるのか？私は考えてみました。

川の水は、山にある森からきています。私はミネラルウォーターをつくっている工場へ見学に行ってきました。そこで「きれいな水をつくるためには、森を守ることがとても大

切だと分かりました。また「森は一度失うと再生するのに百年くらいかかり、さらに土じょうを失うと千年くらいかかることもある」と説明されました。

その後、水の出発点である森に行きました。澄んだ空気、緑あふれる木々、美しくさえずる多くの野鳥。このような森を守ることが、私たちの未来につながっていくことになると感じました。

祖父母の家にいくと、庭にたくさんの小さなアマガエルに会えます。家の周辺に広い原っぱと小川があり、そこから庭にくるのです。ところが年々少しずつ空き地が整備され、草はらが少なくなってきました。庭に出てもカエルに会えない日もありました。今年の夏休みに祖母と電話で話した時「住宅が建って草むらがなくなってしまったからカエルがいなくなってしまったのー」と言われました。あんなにたくさんいたカエルが一匹もいなくなってしまう。私はさみしい気持ちになりました。

そして同時にこわさも感じました。いつもいたものが、すこしずつ見えなくなって、ついにはいなくなってしまう。「絶めつする」ということの重大さが理解できた気がしました。

私達の身の回りにいる小さな生き物は環境の「ものさし」なのかもしれません。危険を身をもって教えてくれているのだと思います。

「自然を大切に」よく聞く言葉です。どんなことが、どうすれば良い方法なのか、考えていきたいと思います。

今の私に出来ること、それは日々の生活で身近な自然を感じていくことです。春のウグイスのさえずり。学校の昇校口に巣をつくりヒナを育てるツバメ。雨の日に出会う大きなヒキガエル。庭で飛び跳ねるバッタ。花のみつをすいにくるアゲハチョウ。海でみるヒトデやクラゲ。

全ての体験が私に教えてくれる。知識をふやしてくれる。自然は私たち人間の知識の源なのだと思います。